

富山県高岡地区産業展示施設  
整備改修等調査検討業務  
中間報告

2024年5月31日

※この中間報告は、現時点における検討の進捗を示すものであり、今後の関係者との  
意見交換や検討過程で新たに判明した事項等により、内容を変更する場合があります。

NIKKEN  
EXPERIENCE, INTEGRATED

日建設計コンストラクション・マネジメント

高岡テクノドームについては、既存の本館に加えて、新たに別館を建設して多様なニーズに対応するため、令和2年度に「高岡テクノドーム別館整備基本計画」（以下、「基本計画」という。）を策定し、これまで取組みを進めてきた。

しかし、昨今の資材価格高騰や労務費の上昇といった社会経済情勢の影響等により、別館の展示棟建築工事の入札（令和5年5月）において応札者が現れず、今後の方針については一旦立ち止まって検討をしている状況にある。

一方、既存の本館は、築33年以上が経過し、大規模修繕が必要な時期に来ている。

これらのことを踏まえ、本館と別館を一体的な施設として、費用を抑えつつ、基本計画に示す機能拡充等の実現を図るため、①本館ではどのような機能強化が可能なのか、②別館にどのような機能が必要なのか、③そのためにどのような整備が必要で、それにどの程度の費用や期間がかかるのかなどの調査が必要となった。

こうした背景のもと、本業務は、本館の現状分析や機能強化に向けた調査を実施するとともに、本館及び別館に整備する機能を検討し、整備に要する概算費用・スケジュール・その他整備に向けた諸課題の対応策等を整理することにより、本館改修と別館建設に係る整備方針の決定を支援することを目的に実施するものである。

本業務の実施にあたっては、以下4点を基本方針とし、検討を進めている。

- ① 基本計画に示す機能拡充等は、本館と別館を一体的な施設として実現するよう検討する。
- ② 既存の本館建物を調査し、どのような機能強化が可能か検討する。
- ③ 本館の機能強化内容を考慮し、別館のあり方を検討する。
- ④ 従前の予算規模を踏まえて整備内容を検討する。

(建設工事費は、本館と別館を合わせて入札当時の予算規模に収めるよう検討する。)

⇒これらの基本方針を踏まえて検討を進めた結果、次に示すケースを現実的な方向性として整理した。

検討案		ケース1		ケース2		参考ケース	
		本館	別館	本館	別館	本館	別館
整備内容		最大限に機能強化	床面積を一定程度以上削減 (ケース2よりさらに削減)	一定程度の機能強化	床面積を一定程度削減	機能強化なし (機能維持の修繕工事は実施)	床面積を維持
		《主な内容》 ケース2の内容に加え、ステージ機能も強化 ・可動式客席の導入 ・照明用パトンの設置 ・控室等の増築(別棟)など	※意匠面(仕上げ・屋根形状等)、構造を簡素化し、コスト縮減を検討 ※新たにZEB Ready化対応	《主な内容》 ・省エネ対応 ・残響音の軽減 ・バリアフリー化 ・パントリー整備 (飲食系への対応等)など	※意匠面(仕上げ・屋根形状等)、構造を簡素化し、コスト縮減を検討 ※新たにZEB Ready化対応	※意匠面(仕上げ・屋根形状等)、構造を簡素化し、コスト縮減を検討 ※新たにZEB Ready化対応	
主な催事への対応	産業展示、商談会	△ (可動式客席を計画する事により展示面積が減少し、既存利用より展示規模が小さくなる)	△ (ケース2よりさらに展示面積減)	◎ (使い勝手の向上)	○ (展示面積減)	○	◎
	講演、集会、式典	◎ (ケース2よりさらに使い勝手の向上)	△ (ケース2よりさらに規模縮小)	○ (使い勝手の向上)	○ (規模縮小)	△ (残響に課題が残る)	◎
	コンベンション	○ (主会場を想定)	床面積減の影響を今後確認	○ (主会場を想定)	床面積減の影響を今後確認	△ (残響に課題が残る)	○ (分科会利用)
	飲食イベント	○	○	○	○	△ (パントリーなし)	○
	音楽イベント(興行)	× (防音性能不足)	○ (興行規模は課題)	× (防音性能不足)	○ (興行規模は課題)	× (残響に課題が残る)	○ (興行規模は課題)
	音楽イベント(非興行) 市民利用など	○ (大音量は不可)	◎ (大音量にも対応)	○ (大音量は不可)	◎ (大音量にも対応)	× (残響に課題が残る)	◎ (大音量にも対応)
	その他、ステージ系	◎ (使い勝手の向上)	○ (ケース2よりさらに収容人数減)	○	◎ (収容人数減)	△ (残響に課題が残る)	◎

凡例：(主な催事への対応欄について) 対応できる：◎～○、不十分な対応：△、対応できない：×

## (1) 本館について

① 施設の課題である残響音については、これを軽減する改修工事により、これまでの産業展示を中心とした活用に加え、以下のように一部の音楽イベント等で活用の幅が広がることを期待できる。

本館で対応可能な音楽イベント等（改修後）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 音楽イベントの音質（音の静謐さ）が求められないもの</li> <li>・無料の音楽イベント</li> <li>・市民利用の発表会</li> <li>など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 大音量が発生しないイベント （具体の催事によるが、目安は以下のとおり。）</li> <li>・ブラスバンド、合唱、ピアノ</li> <li>・ソロコンサート、室内楽</li> <li>・パブリックビューイング（注1）</li> <li>・ダンス、eスポーツ（注1）、プロレス</li> <li>・落語、寄席、講演</li> <li>など</li> <li>※注1：運用上発生音に配慮する必要がある</li> </ul>

② 一方で、施設の防音性能（遮音性能）については、改修による性能確保が現実的でなく、外部音の流入により催事の音質を保てないことや、外部への音漏れによる近隣への影響が懸念される。そのため、本館では、以下のように一部の音楽イベント等には活用できない又は活用の際に近隣への配慮を要することとなる。

本館での対応が困難な音楽イベント等	近隣への配慮を要する音楽イベント等
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 音楽イベントの音質（音の静謐さ）が求められるもの</li> <li>・有料の音楽イベント（興行等）</li> <li>・プロのコンサートやライブ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 大音量が発生するイベント （具体の催事によるが、目安は以下のとおり。）</li> <li>・電気音響系（ロック、ポピュラー）</li> <li>・和太鼓、大編成オーケストラ</li> <li>・ミュージカル・演劇</li> <li>など</li> </ul>

## (2) 別館について

本館を含めた一体的な施設として、入札当時の予算規模を踏まえて検討するなかで、極力当時の機能の維持を図りつつ、物価高騰やZEB Ready化に対応するため、意匠面(仕上げ・屋根形状等)、構造などを簡素化しコスト削減を図るとともに、一定程度床面積の縮減の必要が見込まれる。今後床面積の縮減が、機能に与える影響を確認する。